

検察官（新任検事）



【職歴（キャリアステップ）】

R5. 2 検事任官（横浜地方検察庁）

【志望動機】

小さい頃に、検察官が主人公のドラマを観て、検察官って楽しそうな仕事であり、誰かのためにできることが仕事だと思い、興味を持ちました。司法試験に合格後の検察修習の際、実際に被疑者の取調べをしたときに、人から話を聞き出すことの難しさを痛感するとともに、一つ一つの事件について、自分の意見を持って検討し、自分なりの結論を導くことができることに面白さを感じました。

また、事件を検討するに当たって、検察庁は組織であることから、組織力を活かした捜査を柔軟にできる点にも、魅力を感じました。捜査のために必要があれば、どんなことでもさせてもらえる点は、検察庁という組織に所属しているからこそできることであると感じています。

また、検察修習中に会った検察官は、どの方も楽しそうに仕事をしていることから、この仕事をやってみたいと感じ、検事任官しました。

【業務内容】

私は、現在、刑事部に所属し、事件の捜査などの業務を担当しています。

警察から送致された事件を検討し、被疑者を取調べ、事件関係者からの事情聴取を行ったりし、警察の方の力を借りて、必要に応じて補充捜査を行います。

被害者の方は自分の予期せぬタイミングで事件に巻き込まれてしまいます。検事は、被害に遭い、苦しんでいる被害者のために、自分にできることは何か、被害者に寄り添い考えることを大切にし、話を伺うようにしています。

また、捜査をする上で、被疑者の今後の人生において、同じことを繰り返さないようにすることができるのかについて、事件を担当した検事として、一緒に考えることも捜査をする上で、大事にしています。

自分が担当する事件について、真実はどのような事実なのか、一体何が起こったのか、捜査をすることで真実を知ることができる点に面白さを感じるとともに、魅

力を感じています。

一方で、経験の無さから、事件を検討する上で、自分自身の引き出しの少なさを痛感し、捜査をすることの難しさを痛感しています。しかし、検察庁には、多くの経験豊富な検事があります。分からないときは、いつでも先輩検事に相談し、違った視点で捜査に関する指摘などをしてもらうことができる点に心強さを感じています。

【仕事のやりがい・感想等】

一つ一つの事件について、経験がない分、事件についてどのように向き合えば良いか悩むことや難しいと感じることが多くあります。しかし、検察庁には経験豊富な検事や検察事務官がたくさんいます。そのため、分からないことがあればすぐに助け船を出してもらえ、そのことから学ぶことが多く、日々自分の成長を感じることができます。

また、事件を検討し、その事件の真相が見え、最終的に事件について適正な処分をすることができたときには達成感を感じます。罪名が同じでも、そこに関わる被害者などが異なることから、同じ捜査をする事はありません。その分、悩むことは多くありますが、被害者に寄り添うことができ、被害者に感謝されたときには、達成感を感じるとともに、検事の仕事をしていたよかったと感じる瞬間でもあります。

★学生向けメッセージ★

私は、検事任官をしたばかりで、正直、検事の仕事について分かっていない部分がまだまだ多くあります。しかし、検察庁で働いている方は、本当に気さくで明るい方ばかりで、私は、日々いろいろな方に事件の相談をし、アドバイスをもらっています。また、検察庁はやりたい事件など、どんどんチャレンジさせてくれます。

学生の皆さんの中には、検事の仕事が自分にできるか不安に思われる方もいらっしゃると思います。しかし、検察庁は組織です。困ったときは、誰かが必ず助け船を出してくれます。また、研修制度も充実しており、研修の中で知らない知識などを養うことができます。

私は、誰かのためになりたいと思い、検事任官しました。今、検事の仕事をしています。誰かのためになる仕事であると改めて感じています。学生の皆さんが、この文章を読んで、検事の仕事に興味をもって頂けるとうれしく思います。